ＣＵＢＡＰＯＮ ニュース

日 本 キ ュ ー バ 連 帯 委 員 会

http://ifcc.jp/cubapon.htm　郵便振込口座 00170-2-195919

NO35

2010 年

1 月

東京都新宿区山吹町３３３

辻ビル４０５　ＩＦＣＣ気付

ＴＥＬ：０３－３２６８－４３８７

ＦＡＸ：０３－３２６８－６０７９

E-mail：jvccpf@rmail.plala.or.jp

革命 50 周年記念、救援・CTC 招聘へのご協力に御礼申し上げます。

革命５０年のキューバへ。友好訪問団が催行されました。

◆「継続する革命５０周年記念大訪問団」が、去る 11 月 21 日より実施されました。Ａコース：「キューバを知る旅」8 人、Ｂコース：「友好訪問団」12 人、総勢 20 人。友好訪問団は通算 13 回目となります。

Ａコースは、文字通りキューバを縦断し（ハバナ、サンタクララ、シェンフエゴス、トリニダー、カマグエイ、バヤモ、サンチャゴ）楽しむ旅でプログラムしました。

Ｂコースは、ハバナの他、革命の古都サンチャゴ、チェ・ゲバラが眠るサンタクララを訪れ、CTC（キューバ労働者組合センター）、ICAP(キューバ諸国民友好協会)、人民権力全国会議（国会）、共同農場（UBPC）、ファミリードクター診療所など革命の成果と足跡を見聞してきました。

ハバナでは CBAPON の会員でもある是永宅（ハバナ在）で、これまで世話になってきた ICAP、CTC の関係者を招いて革命 50 年と CUBAPON15 周年を祝う会食会を行いました。詳細は『報告書』で。

上:Bコース：革命広場にて（０９・１１・２７）

下：A コース、老人ホーム訪問

右下：医療支援物資を説明しながら贈呈 CTC 公衆衛生労組へ

◆また訪問団は、救援呼び掛けでいただいた基金で、**医療支援物資（キュアレット、ケーパイン、消毒用ソープ）40,000 円相当を持参**し、CTC 本部において公衆衛生労組代表に贈呈しました。

◆訪問団から分かれ、菊田さんはキューバの**「米作り支援」**のための調査で、別行動で青年の島を訪問してきました。

香川：専門高校学校を訪問

キューバ労働組合センター（ＣＴＣ）招聘交流

２００９年は CUBAPON 結成 15 周年の年となりました。結成以来、緊密な友好関係にある CTC 招聘交流を「継続するキューバ革命 50 周年企画」として取り組みました。取り組みが遅れましたが、関係者で「招聘実行委員会」【君島一宇（自治労共済理事長・CUBAPON 代表委員）、又市征治（参議院銀・CUBAPON 代表委員）、中岡基明（全労協事務局長）、土松克典（活動家集団・思想運動事務局

責任者)、土松克典（活動家集団思想運動事務局責任者)、宝田公治（自治労香川県本部委員長、金子哲夫（元・衆議院議員)、中村明文(自治労長野県本部委員長、松矢文男(CUBAPON 事務局長、鎌田篤則(IFCC 事務局長))、の形をとり、10 月 26 日から、**エルネスト・フレイレ・カサ―ニャスＣＴＣ国際局長**を招聘。

香川、広島、長野と労組関係者、社会施設、学校、原爆資料館など見学、交流しました。東京では、関係団体の表敬訪問の他、10 月 30 日に「記念の集い」を持ち、記念講演、歓迎宴を催しました。

この取り組みは、１９９８年の CTC 第二書記の招聘、２００３年の書記長招聘に続く、３回目の事業として行われました。ご協力いただいた関係各位に感謝申しあげます。

長野：国際局長と中村自治労委員長

上：広島で原爆慰霊碑献花を終て
下：東京で CTC 歓迎の集い

「継続するキューバ革命５０周年連帯の集い」が開催されました。

キューバ革命 50 年の年に、ＣＵＢＡＰＯＮも結成１５周年を迎えました。前号で報告しましたように、今年キューバ政府より「連帯大勲章」を授与されました。

１９９４年、キューバの困窮期に立ち上げて以来、小さな団体ながら、ひたすら“見たまま、体験したままのキューバの真の姿を日本に伝える”ことを心掛け、医療器具支援、労働者交流を続けてきました。大小の差はあれ世界の被抑圧人民にとっての“キューバの尊厳と輝き”はいささかも変わりませんでした。

2009 年７月２５日（７・２６モンカダ兵営襲撃記念日の前日)、ＣＵＢＡＰＯＮは「連帯大勲章授与」「ＣＵＢＡＰＯＮ結成１５周年」を記念した集いを開催しキューバ国民への「連帯アピール」を確認し合いました。

「集い」は 15 年の歩みをみるような、懐かしい方々や、遠方、佐賀からもわざわざ、出向いていただきました。

また、富山栄子・国際交流フォーラム代表から「キューバと中南米情勢」と題して講演をいただき、新しいページを築きつつある中南米にあって輝きを増すキューバについて学習しました。「集い」は、キューバ大使館のネストル・トーレニス二等書記官の来賓挨拶、ラテン歌手で代表委員の、**あい御影さん**の歌、マコトさんの演奏などで盛会に終わりました。

久しぶりに開催しましたＣＵＢＡＰＯＮ全体会で、次への歩みを始めるため「規約改正」と「新役員選任」を行いました。

【ＣＵＢＡＰＯＮ新役員】

代表委員：又市征治、君島一宇、中村明文、鎌田篤則
事務局長：松矢文男
事務局次長：森　信夫、能村　綾（ＣＵＢＡＰＯＮ－Ｊ代表兼任）

上：７・２５全大会の模様
左：あい御影さんの熱唱

		救援・CTC招聘	収支　10・1・28
[収入]	個人カンパ	220,000	36人
	10・31カンパ	25,000	キューバフエスタ
	協賛金	60,000	3件
	CUBAPON	35,288	通常会計より
	物販益基金	85,000	ラム酒、コーヒー等
	借入	114,403	IFCCより
	計	539,691	
[支出]	国際航空券代	111,765	
	滞在費	115,545	東京のホテル代含む
	通訳経費	151,720	
	『集い』経費	103,771	10・30集い(教育会館)
	査証雑費	7,400	キューバ大使館
	支援物資	39,490	医療物資
	計	529,691	

※香川、広島、長野の訪問に当たっては、別途、移動・宿泊・滞在経費を地元で負担いただきました。

※医療支援物資(キュアレット、ケーパイン、消毒用ソープ)は11月21日実施の友好訪問団が持参しました。

※５０周年記念訪問団がキューバの今をレレポートした『経済封鎖下を生きるカリブの社会主義ＸＩＩ』（頒布価 800 円）は２月下旬発行　。ご注文をお待ちしています。

※第５回キューバ連帯アジアパシフイック地域会議（２０１０年３月１９日、２０日　於：ビエンチャン）が開催されます。CUBAPON は過去２回代表参加してきていますが、今回は幹事の村上久美子さんが、参加予定です。同行参加希望者歓迎です。

継続するキューバ革命50周年記念

キューバ労働組合センター（CTC）
代表招待記念の集い
（2009年10月30日）

記念講演「革命50年と労働者」要旨

CTC国際局長
エルネスト・フレイレ・カサーニャス氏

今回はクバポンの協力・援助を得て来日した。来日は、キューバと日本の労働組合の協力関係を活性化することが目的だ。今年は、「クバポン結成15周年」「キューバ革命50周年」「CTC結成70周年」、そして「活動家集団思想運動40周年」と、いくつかの「記念日」が重なっている。

CTCとしての政治的・経済的・社会的役割について

フィデル・カストロが2006年7月31日に議長の座を退いた。これは病気のために一歩下がらざるを得なかった。しかし社会の安定は、この時から今もずっと変わってはいない。キューバ社会の安定は、「子供の組織」「学生の組織」「女性の組織」「農民の組織」、そして「労働者の組織」という組織された社会によって保たれている。この「労働者組織」はCTCの傘下に置かれている。

CTCは1933年1月28日に結成された。この時はまだ資本主義社会の国だった。労働組合も自由加盟で、産業分野によって個々に加盟していた。

現在、CTCは19の組織によって、「働く人々の権利を守る」「経済的再建のために参加する」という2つの役割を担っている。未だに経済封鎖されたキューバについて、昨日（10月28日）の国連総会では、192カ国中187の国が「経済封鎖解除」の決議に賛成し、イスラエル・パラオ・アメリカの3ヵ国が反対した。世界中がキューバに対する「制裁解除」を認めている。

3ヵ国が「解除」を認めないのは、キューバが抵抗しているからでもあるが、それと同時に、キューバが発展してきているからでもある。その例をいくつか挙げる。その一つは、キューバは「人材の育成」「能力の育成」を強力に行っていて、1959年の革命の勝利時、当時の600万～700万の人口で6000名の医者をいたが、3000人が外国に逃げた。それから、この50年間で、7万人の医者が養成された。これこそ、国の前進であるし発展である。

もう一つは「観光」に力を入れてきている。「太陽とビーチ」、今は「家族旅行」「健康旅行」も出来る。また、自然「イベント」にも参加できるし、エコロジーツーリズムにも参加できる。

三つ目には、医療分野での発展と教育分野での発展がある。これらの発展で、ラテンアメリカ、アフリカ、アジアなどの連帯国90ヵ国に於いて、31000人（7万人超の医療従事者の内）のキューバ人が医療に携わっている。視力を回復させる「オペラシオン・ミラグロ（＝奇跡の手術）」と言う「無料の眼科手術」で「目が見える」「視力の回復」の3年半活動で、175万人の患者を診てきた。これも経済封鎖の困難の中で実施している。

経済封鎖と経済危機だけでなく、08年は「3つのハリケーン」があり、10億ドル以上の被害を受けたのだが－－－。

私たちが、なぜこの困難な中でもこのような活動をするかと言ったら、「人間を大事にする」、これが「連帯の基本」になっているからだ。日本からも多くの連帯がある。このような連帯の中で、日本とキューバの労働組合が共通の課題を抱えているし、その中には、困難な課題もある。しかし基本的には社会正義のために働くことだ。

08年の3つのハリケーンによる住宅の被害はまだまだ復旧に時間がかかり、未完のままだ。100万軒が影響を受け、今70%が修理できた。しかし未だに自分の家に帰られずに社会的施設に住んでいる人もいる。問題は解決していない。

そのため今、全国で節約運動を展開している。一つは「エネルギーの節約」で、個人の住宅でも、職場、事務所、工場なども、白熱灯から蛍光灯にしていくことや40Wの電球を30Wにするなど、また300万台以上の冷蔵庫を中国製にする、200万台のテレビの受像・エアコンなど省エネタイプに変えている。被害を受けた家では、「キューバ体制」に賛成の人も反対の人も両方とも差別することなく、銀行からの融資が受けられ、それを10年で返すことになっている。車なども燃費のいいものに代えた。電力を作る時にはより効率化を図った。

このようにして節約の1年間で住宅建設のために10億ドルを作った。これに対する国内の連帯は勿論だが、この時のCTCの役割は大きかった。

国の経済が良くなれば、労働者や家族の生活も良くなる。教育や医療は無料、文化やスポーツも低料金に押さえ、基本的食料は無料で配給される。このようにして80歳まで平均寿命が延びた。今、乳幼児死亡率も1000人中2.3人と改善してきている。

日本は蛍光灯を煌々と付けているが、そういうのはキューバではない。少ししか持っていないものでも、社会的に分かち合うのが社会主義だ。世界中が持つことになれば別だが、キューバだけが持つことはしない。テレビなどで華々しい洋服が紹介されたりして、そういうことを理由にキューバを出る人もいるが、しかしやっぱりキューバにノスタルジーを感じて戻ってくる。出国者は経済的に、グアテマラの資本主義ではなく、ハイチの資本主義でもなく、アメリカの資本主義に魅力を感じて出て行く。しかし「ア

メリカは一度行きたいが永住は望まない」ということを、今度の経済危機の中で個々人が自由に決めるようになってきている。

労働組合と国内・国際関係

CTCは136ヵ国、1100の世界の組織と交流がある。自分は今回オーストラリアと日本を訪れた。これでまた交流組織は増えることになる。今は細い関係だが、幅を広げ、その関係を深くしていきたい。

今、世界は、通信も簡単に出来るようになり便利になった。しかし一方で危険もある。

世界中に「経済的」な危険があり、石油・水など資源の問題、また気候変動なども考えなくてはいけない。洪水と干ばつは世界中に広がっている。キューバで見ても温度は上がっている中で、国家計画を立てるが、このような気候に合わせて立てなければならない。もう一つは「メディア」の面の危険だ。大量の情報が流されが、しかし本当のことが流されずに混乱を起す。今、勤労者の人たちはカッコ付きの「便利な世界」に住んでいる。

今回のように、話を聞くだけではなく、ぜひキューバに来て欲しい。交流を通していろんなことを知って欲しい。スペイン語で日本は「ハポン」と言いそこには「A」が入っている。「キューバ」という言葉にも「A」が入っている。「A」はアミスタ（amistad）・友好の意味を持つ。私は「A」を、日本とキューバの国民をつなげる言葉として捕らえたいと思う。

Q&A

Q1：CTCは、国際組織としてどういう組織と繋がっているのか？また、日本の労働組合は中国の「中華総工会」と繋がっているが、CTC と日本の労働組合との薄いと思うが？

Q2：アフリカへの派兵は何時からしていないのか？また「医療派遣」は行ったままなのか？

A1：自分たちが所属している国際組織は「世界労連」だ。しかし「自由労連」内の労働組合との繋がりも多い。「自由労連」の上部で「キューバに反対する」というところは少数だ。「キューバ人」「朝鮮人」「中国人」と言う見方は、そこの国の政治的な観点から出されたもの。しかしどこの国が一つの政党でくくられた国はあるだろうか？「キューバに賛成か、そうでないか」ではなく、交流しつつ直していく立場だ。ローマ法王にもキューバの指導者は会う。キューバは、世界の全ての国に窓を開いている。

今回の訪日では、全労協、連合などいろんな労働組合の指導者と会った。だから肯定的な関係が出来ると思う。一つひとつレンガを積んでセメントで固めていくことが求められる。このセメントの役割は「クバポン」だろう。

中国、ベトナム、ラオス、カンボジアなど労働組合と関係を持っている。今回訪れたオーストラリアでは建設労組、港湾労組と関係を持っているが、そのレベルアップのため、今回訪れた。人と会うことで良い関係を作ることが出来る。

A2：アフリカとの国際連帯については、南アフリカもナミビアも独立時まで派兵していた。今の部隊は、医者、先生などで、医者は基本的には2年間、医者がローティションを組み、志願する人のみが行っている。期間は「病気の人がいなくなるまで」続くだろう。今のアフリカの平均寿命は47歳だ。平均寿命が短いのは、飢餓と、非識字のせいだ。

ホセ・マルティは「教育を受ければ人間は自由になる」と言った。

◇◇◇

ラウル・カストロ議長は「今度の党大会は歴史的なものになるだろう」と言っている（予定されていた２００９年末の共産党大会開催は未だ確定していない）。

「人間は高齢になれば亡くなるけど、革命はなくならない」　以上

ハイチで我が国の医師たちが展開する医療協力についての最新データ

-現在ハイチにおいて417人のキューバ人医療協力者が活動している。さらにキューバに留学していた240人のハイチ人のレジデント、インターン、医学部の5年生が彼らに加わっている。
-1月21日20時現在、18, 008人の診療、1,771件の手術を行った。
-キューバ人医師は3つのレベルに組織された21の支援ポイントで活動を行っている。
　－プエルト・プリンシペ市：ラ・ルネサンス病院、ラ・パス病院、オファトマ病院、初期治療巡回医療団。
　－首都近郊：カンパニャ・デ・レオガン病院、アルカアイエ、イズラ・ラゴナベ、カルフォル、グラン・ゴアブ総合診断センター、プチ・ゴアブ、トマソ。
　－その他の地方部：カンパニャ・デ・ジャクメル病院、ミレバレ総合診断センター、アンセアボー、ラボトー、アキン、レスカイェス、カボ・アイチアノ、ポルト・ドゥ・パス、グランセ・イ・ニッペス。
-キューバは現在ハイチにおいて16の外科機器を備えた14の手術室を運営している。
-キューバ人スタッフとともにベネズエラ、チリ、スペイン、メキシコ、コロンビア、カナダなどの国々の100人を超える専門家と17人の修道女が活動している。彼らのうちの多数はラ・パス病院で活動している。

以上

在日キューバ大使館提供　２０１０年1月２５日